

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書12章1～7節＞

1 (1) 「まず弟子たちに話し始められた」ことに注目すると。

内容は「ファリサイ人の偽善に注意せよ」であり、前節のイエス様のファリサイ人への批判の続きです。しかし、「数えきれないほどの群衆が集まって来た」中で「まず弟子たちに話し始められた」ことにも注目しておきたいと思います。私たちは多くの人々を前にすると、それを意識して色んな姿を取るでしょう。イエス様は、その時に注意しなければならない姿は偽善だ、と弟子たちに語られたのです（偽善の原語は俳優が役を演じることから出た語）。

2 (2-3) 神様は全てを見ておられるので、いずれ全ては明らかになる！

では、ここでイエス様は偽善で何を考えておられるのでしょうか？ それが2～3節で語られています。何事も隠そうとしてもいずれ露わになる、それは神様が全てをご存じであり、露わにされるお方だから、と。イエス様は弟子たちに、人に媚びることなく神様が示されることを語り続けよ、そうしたならあなたたちが伝えることはいずれ全ての人が知り認めるものとなる、と教えられたのです。イエス様が語られたこの言葉は弟子たちだけでなく、全ての信仰者にとって新たな力となり、これに拠って立つて生きる確かな土台を与えてくれるものです。

3 (4-5) 神様とはどんなお方？ 恐ろしいお方と恐るべきお方の違い。

「だれを恐るべきか、それは殺した後で地獄に投げ込む権威を持っている方だ」、イエス様が語られたこの表現に、「聖書の神様は恐ろしい」と思われる方がいるかもしれません。しかしここで聞き取るべきは、生も死も全ては神様の御手の中にあるのであり、本当に恐るべきはこのお方一人ではないか、ということです。この神様は恐れない、しかしそれ以外の色々なものを恐れて「どうしよう、どうしよう」と生きていることが多い私たちなのではないでしょうか。本当に恐るべきもの恐れて生きる時に、他のものを恐れなくなっていけるのです。

4 (6-7) 恐れることから信じることへの転換。このお方によって！

ここだけ読めばよく分からない内容です。しかし、1,2,3と聞き取って来たことから考えると理屈が通った内容です。私たちは、ただ目の前に起こることに対応して生きようとするだけでは疲れ果てるのです。世界を創り、御子を与えて下さった神様を信じ、神の国を待ち望みながらその神の支配の中を生き始める時に休息が訪れるのです（マタイ11:28）。